

瀬戸市観光推進指針 2026-2030 パブリックコメントの実施結果

1 意見募集期間 令和8年1月21日（水）から2月20日（金）まで

2 意見提出人数 2人

3 意見件数 9件

4 意見への対応

- | | |
|---------------------------------|----|
| A 意見を踏まえて、案の修正をするもの | 0件 |
| B 意見の趣旨や内容を盛り込み済みであり、考え方を説明するもの | 7件 |
| C 今後の事業実施の参考とするもの | 2件 |
| D その他（意見として受理するもの） | 0件 |

5 意見及び市の考え方

意見 No.	意見	市の考え方	対応
1	<p>「エリア戦略と「個別化」の徹底」</p> <p>本指針案では赤津地区が他エリアと一括りにされていますが、日本六古窯の瀬戸焼やそれぞれの地区の専門性は瀬戸観光の核心です。エリアを「面」で捉えるだけでなく、個々の窯元の歴史や技法を尊重した「個別化」されたプロモーションを明記してください。</p>	<p>本指針は、行政だけでなく、市民や関係団体、民間事業者などの幅広い関係者が協力して観光振興に取り組むための指針となるよう、瀬戸市の観光における今後5年間の目指すべき方向性を記述しています。</p> <p>「エリア戦略」につきましては、19ページの「3 エリア戦略」の中に包含しております。</p> <p>なお、具体的な取組につきましては、この指針に基づき瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会を中心に幅広い関係者により検討していきます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	B
2	<p>「観光客の不満を解消する「物理的インフラ」の整備」</p> <p>観光客から寄せられている「道が狭く歩道がない」「案内看板が不足している」「散策中に利用できるトイレが足りない」という声は、観光地としての基礎的な欠点です。</p> <p>改善案：狭隘道路の安全対策、多言語対応の案内板、および公衆トイレや休憩スポットの優先的な整備を計画に盛り込んでください。</p>	<p>「多言語対応の案内板」につきましては、17ページ「基本方針3 瀬戸の魅力・価値が“人と人をつなげる”」の中に包含しております。</p> <p>なお、具体的な取組につきましては、この指針に基づき瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会を中心に幅広い関係者により検討していきます。</p> <p>「狭隘道路の安全対策」や「公衆トイレや休憩スポット」等の設備に関するご意見につきましては、関係部署と共有し、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	B

意見 No.	意見	市の考え方	対応
3	<p>「製作環境を保護する「接客支援」とDXの活用」</p> <p>現在、観光客からの問い合わせ対応によって「製作の手が止まってしまう」という深刻な課題があります。また、「他の窯元の営業情報が不明で案内しきれない」という情報の分断も起きています。</p> <p>改善案（DX活用）：各窯元のリアルタイムな営業・体験状況を可視化する「デジタルマップ」を構築してください。これにより、職人の手を止めずに観光客へ「今」の情報を届けられます。</p> <p>改善案（ネットワーク）：窯元同士が情報を共有し、互いに紹介し合える仕組みを整え、地域全体で観光客をもてなす体制を支援してください。</p>	<p>「DX活用」につきましては、16ページ「基本方針2 瀬戸の魅力・価値を“観光客につなげる”」、また「ネットワーク構築」につきましては、17ページ「基本方針3 瀬戸の魅力・価値が“人と人をつなげる”」の中に包含しております。</p> <p>なお、具体的な取組につきましては、瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会を中心に幅広い関係者により検討していきます。</p> <p>いただいたご意見につきましては、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	B
4	<p>「観光客の心理的・物理的ハードルの解消」</p> <p>「重く割れやすい」陶磁器を持ち歩く負担や、二次交通の弱さが回遊を妨げています。</p> <p>改善案：市内複数の窯元で購入した作品をまとめて配送できる「手ぶら観光」の拠点整備や、AIオンデマンド交通・ARナビゲーションの実装により、移動のストレスを徹底的に排除してください。</p>	<p>「二次交通」につきましては、16ページ「基本方針2 瀬戸の魅力・価値を“観光客につなげる”」の中に包含しております。</p> <p>また、「陶磁器を持ち歩く負担」についてのご意見は、瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会を中心とした幅広い関係者により具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	B
5	<p>「持続可能な協力体制の構築に向けて」</p> <p>本指針を実現する上で最も重要なのは、行政と各窯元が、それぞれが「やるべきこと」と「できること」を明確化し、お互いが協力してより良い持続的な観光環境を構築していくことです。</p> <p>行政の役割：道路やトイレ等の基盤整備、DXプラットフォームの構築、広域的な集客。</p> <p>窯元の役割：質の高い作品制作、伝統技術の継承、可能な範囲での文化体験の提供。</p> <p>この両者が「一方的な要求」ではなく、「互いの状況を受容し、対等な立場で話し合い、支援し合える仕組み（定期的な協議体や現場支援の相談窓口など）」を新たに創設することを提案します。</p> <p>現場の窯元が誇りを持って制作に励み、その情熱に触れた観光客が満足して再訪する。そんな「三方よし」の瀬戸市を目指し、本指針をより現場に即したものと改善されることを切に願います。</p>	<p>持続可能な協力体制の構築は、観光推進を継続的に行っていくうえで重要であると考えており、17ページ「基本方針3 瀬戸の魅力・価値が“人と人をつなげる”」、22ページ「IV 指針の推進」の「推進体制」及び23ページ「進行管理」の中に包含しております。</p> <p>いただいたご意見につきましては、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	B

意見 No.	意見	市の考え方	対応
6	<p>(要約) 「かつて掲げられた観光施策の強化及び現行の他の施策の拡大活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昇龍道プロジェクトの黎明期の頃、観光だけでなく出張等で愛知県を訪れた方に向けて瀬戸市を訪問してもらう施策やプロモーションが計画されていたが、その後どうなったか。 ・前述の施策は近隣地域から足を延ばしていただくことを想定していたが、まずは目的地が瀬戸市である方に再訪していただくことを考えてはどうか。瀬戸市を来訪した方に瀬戸市、ひいては日本の良さを体感していただくため、「古民家を改装した宿」「陶芸等体験ができる宿」「瀬戸焼で食事を提供する宿」を提案する。 ・「瀬戸焼で食事を提供する宿」や既に瀬戸焼で食事を提供している飲食店において、使用する食器のメーカーや窯元、購入できる店舗等の情報を利用客に提供する「せと・まるっとショールーム」化を提案する。グーグルマップの情報等をQRコードで記載したシンプルな掲示物を用意し、店舗で掲示してもらう。この提案であれば、多額の費用や労力のコストを支払うことなく実施できると思われる。 ・古民家宿や陶芸等体験ができる宿を増やすため、事業を始めようとする人や団体に対しての支援事業を実施してはどうか。また、そのような人や団体に対し、類似施設の運営者から話を聞く機会を提供するなど、多角的なサポートを実施してはどうか。 	<p>本指針は、行政だけでなく、市民や関係団体、民間事業者などの幅広い関係者が協力して観光振興に取り組むための指針となるよう、瀬戸市の観光における今後5年間の目指すべき方向性を記述しています。</p> <p>宿泊施設と連携した事業展開につきましては、22ページ「IV 指針の推進」の「推進体制」の中に「宿泊事業者」が含まれており、情報共有を図りながら、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	B
7	<p>(要約) 「インバウンド客の獲得・誘致の手掛かりとしての姉妹都市への強力なプロモーションの実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対策として、姉妹都市との交流における節目を重要な契機と捉え、「瀬戸市シティプロモーション推進アクションプラン2022-2026」「せとファンを増やすー瀬戸を広める」内の「17:市外イベント時などでのPRの強化」の一環として国際交流を積極的に取り組むことで、姉妹都市間で互いの訪問が促進される機運の醸成を図ってはどうか。 ・観光パンフレットや案内看板等の多言語化を進めるべきである。パンフレット毎に訳されている言語が統一されていないことも 	<p>インバウンド対策につきましては、17ページ「基本方針3 瀬戸の魅力・価値が“人と人をつなげる”」の中に包含しております。</p> <p>具体的な取組につきましては、瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会を中心とした幅広い関係者により検討していきたいと考えています。</p> <p>なお、国際交流やシティプロモーション等のご意見につきましては、関係部署と共有し、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	B

意見 No.	意見	市の考え方	対応
	<p>問題である。この際、姉妹都市の言語への対応は特に優先して行われるべきであると考ええる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド対策として、姉妹都市割引の実施を提案する。プラットフォーム上で割引をすることが難しい場合はクーポンや入場券の進呈、決済時の値引きをしてはどうか。姉妹都市との交流イベントが開催された際にそれらのクーポン等を配布するなど、既に瀬戸が認知されている姉妹都市にこうした取組を実施することは効果があると思われる。 ・既存プランやシティプロモーションのプランに「SNSでの情報発信」の記載があるが、SNSでの発信は相応の労力とスキル、資金の投入が求められる。姉妹都市からの誘客を促進することで来訪したインバウンド観光客による「SNSでの情報発信」が期待できると思う。個人旅行が増加傾向にある昨今、ツアー商品の造成以上に個人のクチコミが重要だと考えられるため、グーグルマップや個人のSNS等に各々の母語で投稿するように促す事業を実施してはどうか。 		
8	<p>(要約) 「語学は金を投じるべき観光インフラである」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所での接客をはじめとして、語学力は観光に必須と考える。そのため、語学力のある有償ボランティアの登録を推進することを提案する。 ・多言語パンフレットを制作するうえでも語学の堪能な有償ボランティアは有用である。 ・語学力を要する業務を国際センターから切り離し、語学部門の専門部署を新たに新設することを提案する。こうすることで瀬戸市の語学に対する対応力が増すことが期待できると考える。 ・「瀬戸市観光公式サイトまるっとミュージアム」の外国語訳に誤りや不備がみられるため、サイトの修正や拡充に取り組むべきである。 	<p>有償ボランティアの登録推進及び語学部門の専門部署の新設につきましては、関係部署と共有し、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、「瀬戸市観光公式サイトまるっとミュージアム」の表記に関わるご意見につきましては、瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会と共有させていただきます。</p>	C
9	<p>(要約) 「日本遺産や六古窯の活用が進んでいないのでは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産や六古窯の活用が進んでいないの 	<p>日本遺産や六古窯の活用につきましては、六古窯日本遺産活用協議会において策定した地域活性化計画に基づき、PR事業や産地間連携事業等を行っており、協議会と情報共有等連携を図りながら、「日本遺産のまち瀬戸</p>	C

意見 No.	意見	市の考え方	対応
	<p>ではないかと思う。「日本遺産のまち」や「恋する六古窯」等と銘打ったプロモーションやイベント・展覧会等の開催がかつては盛んだったように思うが、いつの間にか失速したように感じるため、再度しっかりとプロモーションを進めるべきと考えるが、現在どのような計画になっているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まるっとミュージアム」の名前のとおり、市内の主要観光地において日本遺産や六古窯関連の通年販売・配布のグッズを作成・増やすことを提案する。特に六古窯関連においては、「日本最古の施釉陶器生産の地」という要素を盛り込んだ「瀬戸七釉」のグッズ制作や、最初期の頃の釉薬や焼成を再現した焼き物作り体験のイベントを定期的実施してはどうか。予約制でも通年体験できる場所ができれば良いと思う。 	<p>市」として効果的なプロモーションを引き続き行っていきます。</p> <p>なお、いただいたご意見につきましては、協議会と共有し、具体的な取組内容を検討する際の参考とさせていただきます。</p>	